

大阪府立東高等学校 創立100周年記念式典 式辞

本日、ここに、大阪府立東高等学校の創立100周年記念式典を挙行いたしましたところ、ご多忙にも関わりませず、ご来賓として、大阪府教育庁教育監 大久保宣明様、都島区長 藤岡慶子様をはじめ、歴代の校長先生方のご臨席を賜りました。本校関係者一同を代表いたしまして、心より御礼申し上げます。

また、同窓会、後援会、PTA の皆様、地域の皆様、そして、本校旧教職員の皆様にもたくさんのご列席を賜りました。皆様とともに創立百周年をお祝いできることは、大変喜ばしいことであり、光栄の至りであります。心より感謝申し上げます。

本校は、大正12年、商都大阪における中等学校設立の波に乗り、「大阪市立東区女学校」として、当時の東区船場の地に開校いたしました。入学式は、月組、雪組、花組の3学級144名の入学生と職員10名とで行われ、開校式が行われた5月12日を創立記念日とされました。当時は、大阪市外に百坪程度の農園を創設、生徒と教員が協力して農作業を行っていたそうです。学校での授業や郊外学園での学校行事の開催など、時代に合った教育活動の充実に努められ、郊外学園は、現在のセミナーハウス「陵南学園」に、その名を引き継いでいます。

その後、戦後の学制改革により、男女共学の「東高等学校」となり、中学校や定時制課程の併設、家庭技芸科、のちの被服科の設置など、多様で先進的な教育を実践し、戦後の大阪の教育を支えてきました。

高度経済成長期を迎えた昭和30年代後半からは、入学者の急増を受け、校舎移転の声上がり、当時の学校関係者の熱意と長年の努力により、昭和54年、ここ都島区、大阪大学工学部の跡地に移転し、今日に至っております。

大正、昭和と激動の時代を突き進んできた本校は、平成においても、科学技術の発展や国際化を踏まえ、平成3年に府内初の理数科、平成6年には英語科を設置するなど、時代の変化や社会のニーズに速やかに対応するとともに、さらなる特色化、個性の伸長に努めてまいりました。

100年という長い間、そのように確かな歩みを続けてこられたのは、言うまでもなく、歴代の校長先生方、教職員、卒業生の皆様をはじめ、同窓会や後援会、PTA や地域の皆様の愛校心と日々のご努力にほかなりません。これまでの東高校関係者の皆様の功績に敬意を表し、あらためて感謝申し上げます。

さて、ここ10年は、「Society5.0」が提唱されるなど、ICT や IoT、AI の進化に伴い、社会のあり方の変化が求められてきましたが、図らずも新時代、令和に始まった新型コロナウイルス感染症の感染拡大により、生活の変化を余儀なくされました。その窮地においても、本校では、生徒の学びを止めぬよう、教職員が一致団結し、オン

ライン授業や課題の配信など様々な工夫と努力を重ねてまいりました。また、この間、数々の制限を強いられた生徒たちも、その前向きな気持ちと創意工夫により見事に乗り越えてくれました。

昨年4月には大阪府への移管により、本校は大阪府立高校としてスタートいたしましたが、これまで大阪府で培ってきた3学科の特色を活かした教育実践は、「探究」を軸とした学習活動や、生徒会を主体とした学校行事への積極的な取組とともに、確実に、発展的に引き継がれており、先輩方に負けない生徒たちの頑張り、その頑張りに応えようとする教職員の情熱は、府内における本校の存在感をさらに高めてくれています。

生徒の皆さんは、この伝統ある東高校の一員であり、歴史の一端を担う「当事者」です。皆さん一人ひとりの学校生活がこれまでの100年とこれからの100年をつなぐものとなります。これまでの歴史を心に刻み、伝統に誇りをもって、また今日から一歩ずつ歩んでほしいと思います。そのために、本日は二つ、皆さんに伝えたいことがあります。

一つは「今をしっかりと生きる」ということです。

今回、私は、東高校の100年の歴史を振り返るなかで、そのモノクロの写真の中の先生方や生徒の皆さんの真摯に勉学に取り組む姿や充実を物語る明るい笑顔を見、生きる時代は違っても、「今」を一生懸命生きているのだということが伝わってきました。そして、当然のこととはいえ、開校から今日までの「今」という時間の積み重ねが、この100年の歴史を作ってきたのだとあらためて感動し、「今を生きること」の大切さを実感しました。

もう一つは、記念誌の表紙にも書いた「挑戦」です。

東高校がこれまで進化し、発展し続けてきたのは、関係者の方々の様々な「挑戦」があったからだと思います。100年は、確かに一つの区切りではありますが、新たな歴史の始まりでもあります。そして、次の100年がどのようなものになるかは誰にもわかりません。だからこそ、何があっても、常に「挑戦」する気持ちを忘れず、「今」を精一杯生きることが、皆さんの明日をつくり、次の歴史をつくれます。東高校の100年の「後継者」としての皆さんに期待しています。

本日の式典開催にあたりましては、同窓会、後援会、PTAの皆様をはじめ、本校関係の皆様にご多大なるご支援をいただきました。心より感謝申し上げますとともに、校歌の締め歌の歌詞、「進み行かん この朝ぼらけ」の言葉通り、東高校が今後も世の中の先陣を切って進まんことを祈念いたしまして、式辞といたします。

令和5年11月11日

大阪府立東高等学校 校長 寺本 圭一